

新しい時代を担う体力づくり

「事務事業評価」と「補助金等審査」の答申について

第31回

市では、行政改革の一環として「事務事業評価」と「補助金等審査」に取り組んでいます。11月7日には養父市事務事業評価・市民評価委員会（荒田幹夫委員長、11人）から、11月12日には養父市補助金等審査委員会（守本竜司委員長、9人）からそれぞれ市民評価が答申されました。今月号では、2つの答申の概要についてお知らせします。

事務事業に対する市民評価について

（1）市民評価の基準

【妥当性】市が行う必要がある事業かどうか、社会環境の変化から事業の実施意義が低下していないかなど。

【有効性】事業が市民生活の向上につながっているか、成果があるかなど。

【効率性】事業にかけたコストに見合っただけの効果が得られているか、内容に無駄がないかなど。

（2）市民評価の方法

評価は、各部署で作成した自己評価シートと「アリング」によって行い「維持・拡大」「改善」「民間委託・民間化」「廃止・休止」の4方向を示していただきます。

（3）市民評価の結果

「維持・拡大」＝83件、「改善」＝318件、「民間委託・民間化」＝31件、「廃止・休止」＝70件

（4）付帯意見（抜粋）

①事務事業のあり方について
 ↓あらゆる業務において、ペーパー化に取り組むこと。
 ↓福祉関係の事業は、細かな事業が乱立しており、市民に分からにくいため、体系的に整理をすること。

補助金等に対する市民評価について

（1）審査基準

【妥当性】市が関与する必要があるか

どうか、特定の者のみに利益が限定されていないかなど。

【有効性】補助金等が団体の活動に十分生かされているか、今後も事業の効果が期待できるかなど。

【効率性】補助金等の使い道は適正かどうかなど。

（2）審査方法

審査は、事業ごとに点数評価を行った後、問題のある補助金等を選び出して、合議で「継続」「見直し」「廃止」という3つの方向が示されました。

（3）審査結果

「継続」＝34件、「見直し」＝25件、「廃止」＝15件

（4）付帯意見（抜粋）

①補助金等に関する市の基本的考え方に関して

↓企業会計に対する補助金については、対象となる事業そのものに市が行う妥当性や経営上の問題がある。

↓市の補助金によって成立している地域文化等の事業については、市民・民間企業の協賛を得られやすくして、補助から自立支援といった形に変えていくべき。

市では市長評価を行い、12月中旬にはインターネット等を通して公表するほか、希望者には、市役所窓口で有償（紙・印刷代）で配布します。お問い合わせは、市役所行政改革推進室（☎662-7601）までお願いします。



▶事務事業評価の市民評価を答申する荒田幹夫委員長ら

～市議会の役員体制が決まる～

議会議長に 北尾行雄議員を選出

11月13日、第30回養父市議会臨時会が開催されました。改選後初めての本会議となった同会では、正副議長をはじめとする役員選出が行われました。

結果、議会議長には北尾行雄議員、同副議長には西田雄一議員が選出されました。

【養父市議会役員構成（敬称略）】

- ▶議長＝北尾行雄
- ▶副議長＝西田雄一
- ▶監査委員＝吉井 稔
- ▶政策総務常任委員会委員長＝西谷昭徳
- ▶文教民生常任委員会委員長＝安井義隆
- ▶産建環境常任委員会委員長＝高橋本明
- ▶議会運営委員会委員長＝水野雅広
- ▶議会広報特別委員会委員長＝森本茂行



北尾行雄議長



西田雄一副議長

～会派が結成されました～

議会の活性化とその機能を効果的に発揮するため、5つの会派が結成されました。

【養父市議会会派名簿（敬称略）】

- ▶志民クラブ＝西谷昭徳(会長)、森本茂行、寺田耕司、北尾行雄
- ▶新政議員団＝勝地恒久(代表)、西村禮治、田中久一、圓山浩平、瀬原達夫、田村和也
- ▶日本共産党養父市会議員団＝藤原敏憲(代表)、竹浦昭男
- ▶政策会派「Yabuu! (ヤブー)」＝水野雅広(代表)、西田雄一、安井義隆
- ▶高志会＝高橋本明(代表)、吉井稔、深澤巧



「ごみ処理施設の都市計画決定に関する説明会」を開催します

養父市および朝来市では、今年度、「南但ごみ処理施設」の都市計画決定（市決定）を予定しています。

今後、両市で都市計画案の内容をとりまとめていきますが、それに先立ち、計画内容について市民の皆さんのご意見をうかがうため、都市施設の決定に関する説明会を開催します。

▼とき／12月25日（木）午後7時30分

▼ところ／市立養父公民館2階A研修室
▼お問い合わせ／市役所都市計画課
（☎664-1981）

★説明会の内容

養父市および朝来市では、可燃ごみについて周辺環境に配慮した処理を行っていますが、現在使用しているごみ処理施設は稼働後約20年を経過し、老朽化が進行しているため朝

来市和山町高田地内に新たな施設の整備を予定しています。

この施設は、減量化、再生利用を前提とし、循環型社会、脱温暖化社会の形成に寄与するため、可燃ごみ処理施設（ごみ焼却施設およびバイオマス施設）およびリサイクルセンターとして整備します。

整備予定地区は朝来市ですが、すべての養父市民が利用する施設のため、両市で都市計画決定することとしています。